

碎石スクリーニング舗装工 施工管理基準

平成13年7月1日 作成

教育委員会事務局施設部校地整備課

1. 目的

この基準は、横浜市内の学校グラウンド改良砕石スクリーニングス舗装工にあたり、設計図書に定められた品質及び出来形規格の確保を図ることを目的とする。

2. 構成

この基準の構成は、図1 のとおりとする。

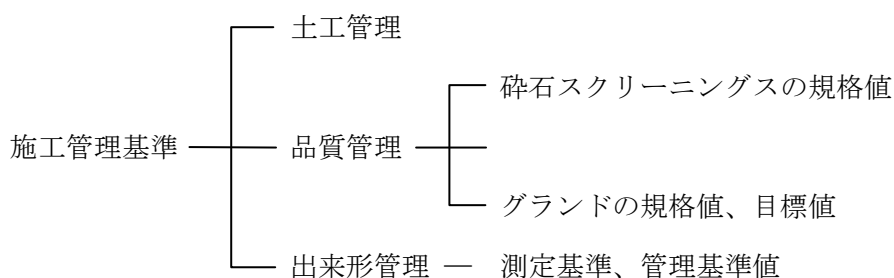


図1 施工管理基準の構成

3. 土工管理

この管理は、土工に際しての留意すべき基本的事項である。

- (1) 着手に先立ち、現況グラウンドの高さを事前に測量すること。
- (2) まき出し材料の粒度確認及び日照や降雨による含水比変化を防ぐため、転圧施工量1日分まき出し量とすること。

4. 品質管理

工事着手に先立ち、施工管理基準及び規格値をもとに施工管理計画を定める。なお試験・測定は着手前・施工と並行して出来るだけ早い時期に行い、管理の目的が達せられるようにしなければならない。

4-1 砕石スクリーニングスの規格値

敷均し用砕石スクリーニングスは、見本・粒度分析（ふるい分析）等の試験成績表を監督員に提出し、承諾を得たものを使用する。なお、使用する砕石スクリーニングスの試験項目、品質規格値及び整理方法を（表-1）に示す。

(表一1) 砕石スクリーニングスの試験方法、試験項目及び品質規格値

試験項目	規格値		整理方法
骨材の粒度試験 (ふるい分け) JIS A 1102	礫分含有率(2500 μ m以上)	15%以下	(JIS A 1102) により整理
	細粒分含有率(75 μ m以下)	20%以下	
	最大粒径(D _{max})	5mm以下	
土の塑性限界試験 JIS A 1205	1種	N P	(JIS A 1205) により整理

出典元：JISA 5 0 0 1 道路用砕石の砕石スクリーニングス(F-2.5)より

4-2 グランドの規格値、目標値

改良後のグラウンドの品質は、(表-2)に示す規格値で管理する。この品質規格値を標準として、設計値に適合しているかの確認を行うためのものである。

- (1) 改良グラウンドの品質は、試験値及び測定値の平均値が(表-2)の規格値及び目標値の範囲内でなければならない。
- (2) 細粒分とは、75 μ m以下のシルト分と粘土分である。
- (3) 締め固め度を表す針頭支持力は、施工時における転圧直後の硬度としての基準値を適用する。
- (4) 締め固め度は、(表-2)に示す硬度規格値(針頭支持力)に適合することを確認のうえ決定しなければならない。
- (5) 締め固め度確認の要領は、プロクター・ニードル試験により行い、その結果を別紙(書式-1)に整理する。

(表-2) グランドの規格値, 目標値 (碎石スクリーニングス)

試験・測定項目		規格値	目標値	測定頻度
JIS A 1102 粒度特性	礫分含有率 % (2500 μ m以上)	15%以下	15%以下	グランド面積 3,000m ² 未満の場合1箇所、 3,000m ² 以上の場合 3,000m ² につき1箇所追加。
	細粒分含有率 % (75 μ m以下)	20%以下	20%以下	
	最大粒径 (D_{max}) mm	5 mm	5 mm 以下	※ ¹⁾
針頭支持力(q) kg/cm ² プロクター・ニードル試験		50~80	40~100	グランド面積 5,000m ² 未満の場合5箇所、 5,000m ² 以上の場合 1,000m ² につき1箇所追加。 ※ ¹⁾

* ¹⁾ 平面的にバランスよく配置すること。

5. 出来形管理

5-1 出来形測定基準, 管理基準

工事完成後は（表-3）の測定基準を基本として、各試験及び測定した結果を別紙書式に示す要領にて記録し、速やかに監督員に提出しなければならない。

（表-3） 出来形測定基準, 管理基準 砕石スクリーニングス

	試験・測定項目	測定法	規格値	目標値	測定頻度
出来形管理	仕上がり厚さ (H) cm	測定孔による 実測	設計値	個々の厚さ -0.9cm 以内 平均 -0.5cm 以内	グラウンド面積 400m ² ごとに 1箇所。 ※ ¹⁾
	高さ cm	水準測量	設計値	±0～+3.0cm	10mメッシュ
	路床高さ cm	水準測量	設計値	+2.0cm 以内	10mメッシュ * ²⁾

*¹⁾ 平面的にバランスよく配置すること。

*²⁾ 仕上がった路床についてプルフローリングを行う。

5-2 調査・試験要領

調査・試験の要領は、原則として次の点に注意して実施しなければならない。

- (1) 試験試料採取深度は、地表下 GL-1~-5cm または、地表下 GL-1~-10cm の範囲とする。

その際、表層のゴミや下部土砂が試験試料に混ざらないように注意しなければならない。

- (2) プロクター・ニードル試験は、表面の砂を除去した地表面から深度 0.5~2.5in の範囲で 0.5in 刻みの測定（計 5 点）を行う。

- (3) 現地調査日は、調査対象深度が浅いことから降雨による影響を考慮して定めなければならない。季節にもよるが調査・試験成績の精度を高めるため、降雨後少なくとも 2 日間以上の乾燥期間を必要とする。

- (4) プルフローリング試験は、仕上がった路床に 4 t タイヤローラ、又は施工時に用いた締固め機械と同等以上の接地圧をもった車輪（ゴムタイヤ）をゆっくり走行させ、タワミが大きいことが確認された場合は、材料の入れ替えなど検討し、適切な処置を講じなければならない。

5-3 整理方法

各試験及び測定値は、(表-4)に示す書式に整理するものとする。

(表-4) 各試験及び測定値の整理方法 砕石スクリーニングス

試験・測定項目		整理方法	試験・測定頻度
砕石スクリーニングス	骨材のふるい分け 試験	書式-1	グラウンド面積 3,000m ² 未満の場合 1箇所、 3,000m ² 以上の場合 3,000m ² につき 1箇所追加。 ※ ¹⁾
プロクター・ニードル試験			グラウンド面積 5,000m ² 未満の場合 5箇所、 5,000m ² 以上の場合 1,000m ² につき 1箇所追加。 ※ ¹⁾
寸法	仕上がり厚さ	書式-2	グラウンド面積 400m ² ごとに 1箇所。 * ¹⁾
	高さ		10mメッシュ
	路床高さ		10mメッシュ * ²⁾

*¹⁾ 平面的にバランスよく配置すること。

*²⁾ 仕上がった路床についてプルフローリングを行う。